

富山湾における海底谷の役割について

～シロエビ・ホタルイカの生態からその謎を探る～

海洋資源課 主任研究員 南條 暢聡

1 背景・ねらい

富山湾は日本三大深海湾の一つとされ、沿岸近くから急激に深くなるという特徴を持っている。そのため、標高 3,000m の高地から水深 1,000m の深海までの距離が短く、陸域から海域にかけて環境が劇的に変化する。海底谷はそのような環境変化を生み出している構成要素の一つであり、陸域と海域のちょうど境界付近にみられる地形である。本研究では、富山県の代表的な水産生物であるシロエビ（標準和名：シラエビ）やホタルイカについて調査船調査や文献調査等により、それら生物の生態が海底谷とどのような関連性を持っているのかを示しながら富山湾における海底谷の役割について考察を行う。

2 成果の概要

富山湾奥の沿岸海域についてシロエビ幼生の採集調査を実施したところ、庄川・小矢部川、神通川、常願寺川河口付近にある海底谷において、幼生（ふ化直後および変態後）の個体数密度が高くなる傾向があった（図 1）。また、神通川沖の海底谷付近に範囲を絞り同様の調査を実施したところ、調査月に関わらず沿岸近くにある谷頭付近において個体数密度が特に高くなる傾向がみられた（図 2）。このことから富山湾に生息しているシロエビは繁殖特性の一つとして海底谷で幼生をふ出させている可能性が示唆された。

また、春季に日本海側で漁獲されるホタルイカについて過去のデータや文献を整理すると、急峻な地形をもつ大陸棚外縁付近に漁場が形成される傾向が示されている。富山湾でみられる海底谷もそのような特徴を持った地形であり、沿岸付近まで海底谷が発達している海域が主な漁獲海域であることを考えると、産卵のために来遊してきたホタルイカが海底谷を利用している可能性は高い。

これらのことから、富山湾でみられる海底谷がシロエビやホタルイカの繁殖生態に少なからず関係していることが考えられる。

3 成果の活用面・留意点

本研究で得られた結果は、漁場としても重要度が高い海底谷に関する情報として蓄積され、海底谷との関係性が想定される海洋生物の生態を解明する上での基礎情報として活用される。

今後は海底谷付近の環境データを充実させていくことが必要不可欠である。

4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 海洋資源課

担当：南條 暢聡

TEL 076-475-0036

(参考) 具体的データ

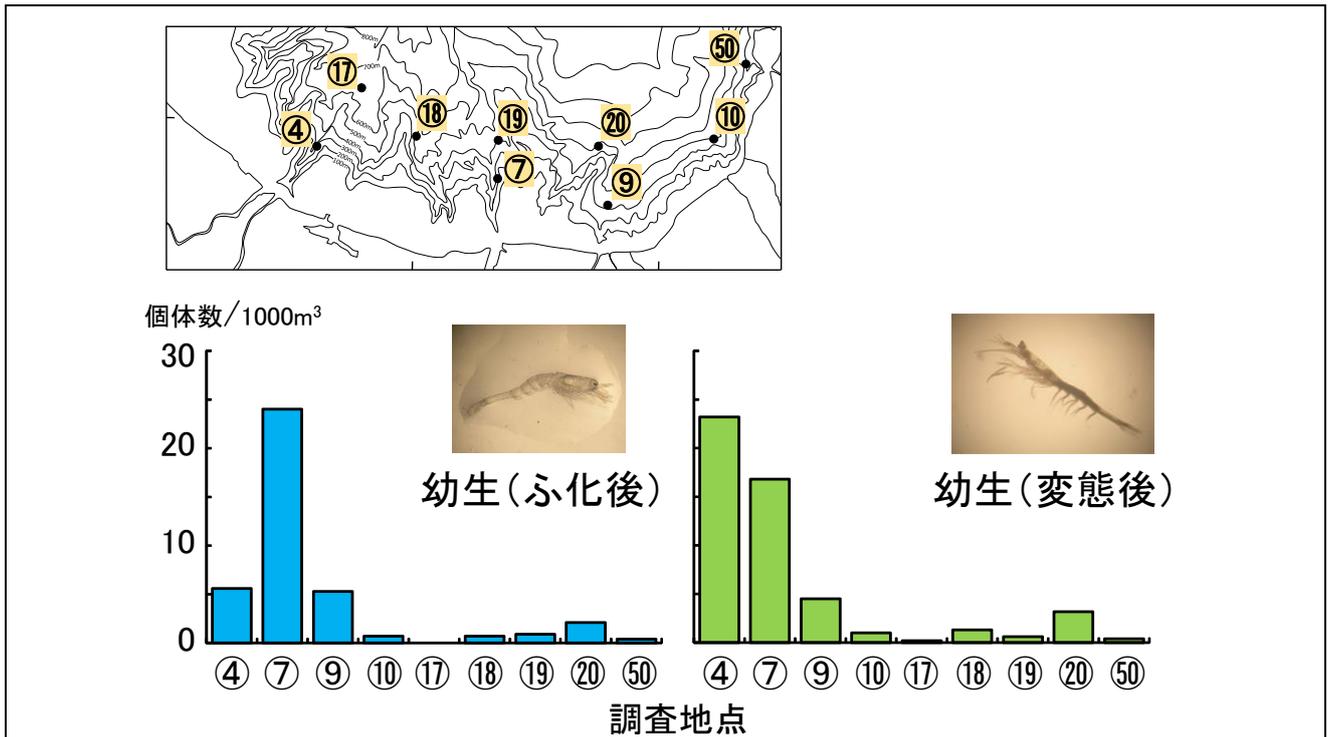


図1 シロエビ幼生調査の調査地点図(上)と幼生の調査地点別平均個体数密度(下)

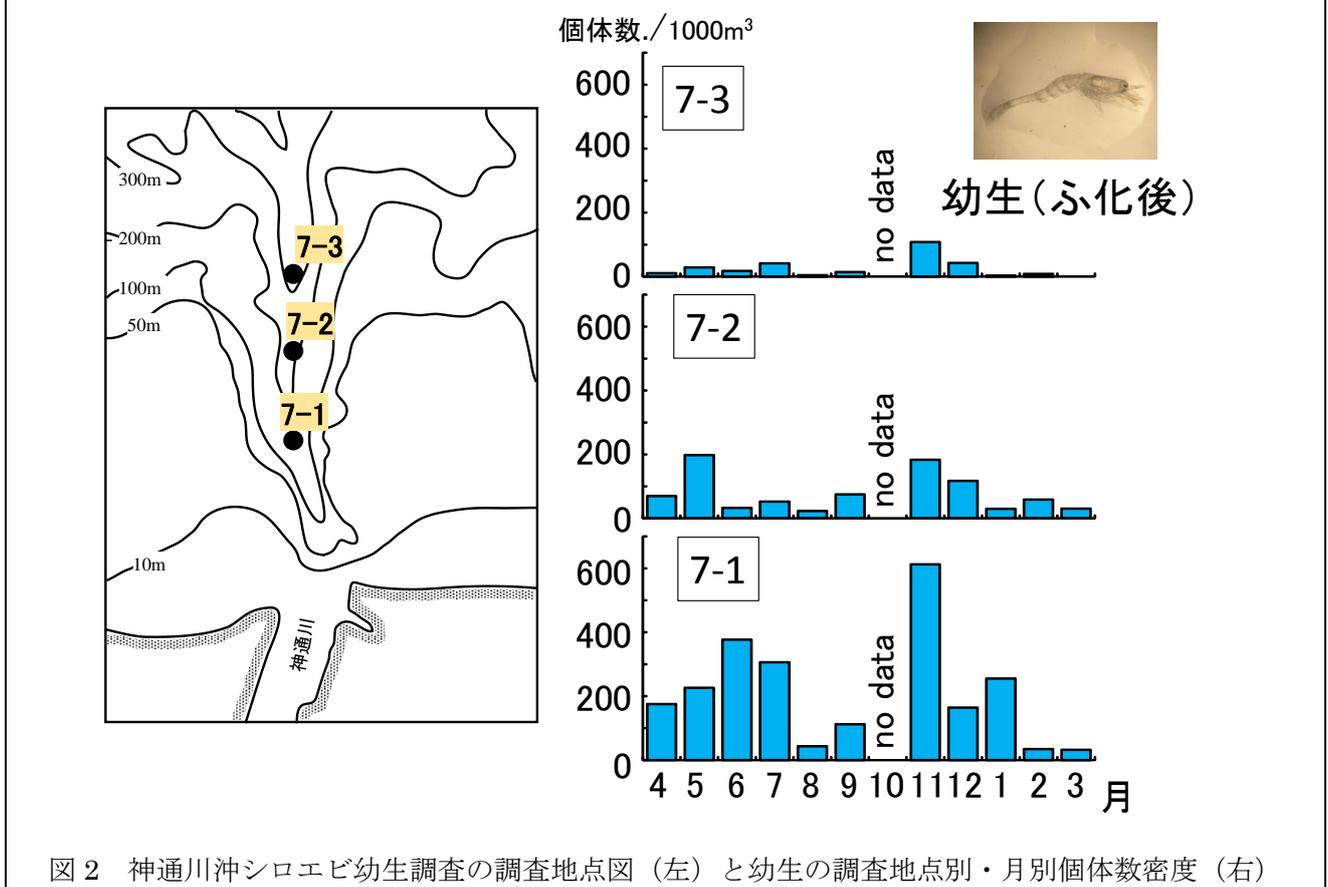


図2 神通川沖シロエビ幼生調査の調査地点図(左)と幼生の調査地点別・月別個体数密度(右)